

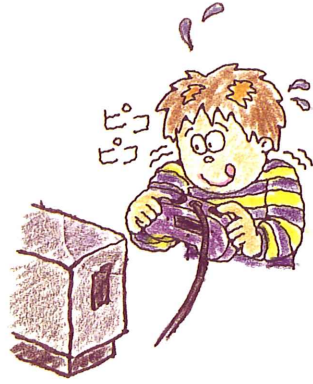
教育 相談室

子どもを信じて支援を

中学二年の長男が、最近いらいらして落ち着かず反抗的な態度が目立ってきました。これまで割合素直だったのですが、口数も少なくなり学校の様子もほとんど話さないのどうしたらよいかわかりません。勉強はあまり好きな方ではないし、ファミコンに時間を費やすことも多く、このまま三年生を迎えるのはとても不安です。しっかり勉強して高校へ行ってほしいのですが、どのように接していけばよいでしょう。

●悩みに共感

思春期とは誰でも自立しようとして自己主張をするときです。しかし、なかなか自分の思うようにならず、ささいなことが気になったり、不安が高まっていららしたりすることが多々あります。でも、そのことをお母さんに話すことは少な



く、態度で不安や不満を訴えているとも考えられます。ゆつたり構えて子どもの心を受けとめ、気持ちや悩みを分けてあげることが大切です。

●個性を認めて

子どもは子どもなりに、自分の将来を考え、勉強しようと思っています。そんなとき「もっと勉強しなさい」「こんな成績では、よい高校へ進学できないよ」とか「ファミコンばかり」といったお母

さんの言葉は子どものやる気を失わせ、反抗的にします。子どもはそれぞれ個性を持ち、可能性を秘めています。その個性を伸ばすことが大切です。いろいろな角度から自分を知り、個性を生かす将来の進路を子どもは自分で考えているはず

です。お母さんは人生経験の豊かなカウンセラーでありアドバイザーですから、子どもを信じて温かく見守り、子ども自身で進路が決定できるように支援していきましょう。

●家族で支えて

家庭は子どもにとって安心でき、心がやすまる温かい場所であってほしいと思います。子どものよいところや努力

を家族みんなが認めて励まし支えることが大切です。必ず自分の力で目標に向かって前進していくことでしょう。

(鯖江チャイルドセンター)



寒い季節となり、子どもたちも家にとじこもりがち

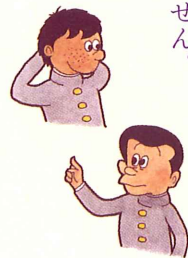
よい環境で

青少年を健全に

あなたの住む地域には、青少年の目に触れる場所に有害図書、ビデオ、がん具の自動販売機があったりテレクラ、伝言ダイヤル、ツーショットダイヤル等のちらし等が置かれたり、貼られたりしていませんか？

現代の享乐的社会を反映し、青少年を取り巻く環

境は、決して良いとはいえません。



青少年には、社会の流れを柔軟に受け止め対応する、時代を担う優れた資質があります。彼らのすこやかな成長を願い、青少年にとって望ましい社会環境作りに心がけましょう。

青少年健全育成 鯖江市民会議

はくみ

発行 鯖江市教育委員会 鯖江市社会教育委員会 青少年健全育成鯖江市民会議 協力 丹南愛護センター鯖丹支所



11号

育てよう 心のたくましさ 立待小学校学習発表会より



# たくましく子育てする

## 三つのポイント

世をあげて便利さを追及する時代となりました。便利さを追及するにつれて、人々の心はだんだん軟弱になってしまったように思います。今号では、「子どもたちをたくましく育てる」という角度から家庭のあるべき姿について考えてみたいと思います。



### がまん出来ない 現代つ子

言い出したら聞かない。自己主張は強いが協調性がない。すぐカーッと来るかと思えば、ちよつとした失敗でもガククリしてしまふ、こんな子が増えたと報告書は伝えています。

どうしてなのでしょう。それは、苦勞や忍耐、努力を嫌う現代の風潮に強い影響を受けているからなのです。

ボタンをおすだけでなんでも出来る。物は豊富でいつでも手に入る、我慢することもない。

だから人々は、苦勞や忍耐、努力なんてひと昔前の古い考え方だと思ってしまうのです。それもごく自然に。

しかし良く考えてみると、苦勞や努力、忍耐を必要としない人生なんてあり得ないのです。とすれば、どこかで心の強さを育てないと、厳しさに耐えられない弱い人間となってしまふでしょう。

それは学校で、とすべてを学校に期待されますか？ たしかに学校で教えてくれますが、そこにはおのずと限度があります。日頃の生活体験の中から身についたものを学ぶ、これはやはり家庭が第一だと思えます。

家庭は、苦勞・忍耐・努力・工夫など、心の強さをはぐくむ最も大切な場所だとはつきり認識し直す必要があります。そのためには、お父さん、お母さんがまずお手本を示すことです。子どもは、親の言うこと

はなかなか聞かないけれど、親のしていること、話すこと、物の考え方はちゃんと見ています。ある意味では、身近で最も厳しい批判者でもあるのです。

それから、食事の後始末、家のまわりの掃除、整理整頓などの共同作業を子どもと一緒にやることを心がけていただきたいものです。

そして「子どもを育てるということは、とてもすばらしい仕事なのだ」という誇りを持つことが、なんといつても根本になければならないと思います。

「薬をなんてんとかいい目にあいたい」これは間違った考え方です。いつかお母さんにアンケートをとった人がありました。貴女のもつともいやなことから書いてくださいというものでした。一番多かったのが料理。次いで洗濯。その次育児、後始末と続いていたそうです。



### 楽しいいい目にあいたい

子どもには、どんなお母さんが好きですか、と尋ねました。一番が料理の好きなお母さん、二番目に多かったのが、お父さんを大切にしているお母さん、三番以下は、洗濯の好きなお母さん、明るいお母さんと続き、一番最後になんでもくれるお母さんとあつたそうです。

このアンケートで、お母さんのいやなもの、嫌いで面倒くさいものが、実は子どもが一番求めている好きなお母さん像であることがわかりました。



さてあなたは自分の子どもの心の内をどう見ているか。果たして子どもの求める母親像に込んでいるでしょうか。

よく思索してみますと、ながい人生を過ごしていくには、ただ単に学問や知識が豊富であることよりも、くじけない意志、たくましい精神力、豊かな感性が何にも増して必要はなはずなのです、それが今は嫌われてしまっている、このムジユンに気付いてほしいと思います。

もしあなたの子供が、すぐくじける弱い性格の持ち主だとしたら、親としてこれほど不安なことはないと思いますがいかがでしょうか。

楽しんでいい目にあいたい、これは誰しもが願う望みであったとしても、決して人生を支えるたしかかな考え方であるとはいえないのです。



### 過保護は子どもを駄目にする

おおまかに言って、子どもの非行や暴力、その他の問題の原因は、アメリカでは、夫婦の仲が悪く、離婚・結婚を繰り返すことにあり、日本では親、特に母親の過保護にあると分析されています。

よく引合いに出されるのが猫。猫は我が子可愛さのあまり、出産して間もない頃、人目につくと隠し、最後には呑み込んでしまうそうです。それと同じように、猫可愛がりに子どもを盲愛すると、呑みこんでしまうことになる。つまり我が子の心の成長を止めてしまうというわけです。

人間の心には、なにもにも制約されないうる。ようにやりたい、という本能的な欲望と、それでは家庭や社会が成り立たない、どこかで、欲望を抑えなければならぬと気がつき、欲望を抑制する心が働く、そうした二面があります。

それらがバランスよく作用していつかはじめて一人前の社会人となるのが出来るのです。過保護は簡単にできますが、抑制力は教育やしつけによって生まれてくる心の働きです。

さて、皆さんの家庭では果たしてどんな態度で子育てをしているか一度静かに考えてみてほしいと思います。保護も「過」がつくと駄目、抑制も強すぎると駄目、なかなか難しいものです。

あまり結果にとらわれないうで、失敗してもいい自分でやらせる。してはならないこと、しなければならぬこと、しななければならぬこと、このけじめをはっきり教える。こうした態度が求められるのではないのでしょうか。

家庭はこうした子育ての重要な場なのです。



### 滴

ある四人がしみ語りました。「僕は幼い頃、病床にあった母を喜ばせようと思つて、人様の家から食べ物盗み、母にあげました。何も知らなかった母は涙を流して喜んでくれました。それから人のものを盗むことを覚え、社会人となつても止められず、こうして刑務所暮らしが続いているのです。」

母親を喜ばせようと思つた子どもの心情、これは美しい、しかし手段が間違つていました。一方お母さん。我が子の心を察し、喜んだのはいいとして、あるはずのない食べ物をどうして手に入れたのか尋ねることを忘れていました。やさしい心はありがたいが、人様の物を盗むのは決していいことではない、と厳しくいさめていたら、その子の将来はどう変わっていたでしょう

### 規範感覚を育てる

子どもは親の価値判断をそのまま受けつこうとするものです。だから、していいことといけないこと、これを日頃からはっきり教えることが大切なのです。こうして育つ能力のこと規範感覚といえます。今は、大人も子どもも、この感覚が鈍ってきているように映るのですがどうでしょう。